

# 「オウム真理教対策関係 市区町連絡会総会」開催

6月10日(水)、平成27年度オウム真理教対策関係市区町連絡会(25市町で構成)が全国町村議員会館(千代田区一番町)において開催されました。

平成26年度の事業報告として、平成26年11月14日、法務大臣、公安調査庁長官に「観察処分」の更新及びオウム真理教問題の抜本的な解決に向けた法整備などを求める要望書を、平成26年12月25日、公安審査委員会委員長に「観察処分」の更新を求める要望書をそれぞれ直接提出したこと等が報告されました。

また、平成27年度の活動方針として、住民に不安を与える反社会的危険集団の活動を認めないとの基本原則を確認し、「オウム真理教に利益を与えない」「オウム真理教に施設を与えない」「市町村連絡会設立の趣旨に基づき、解散させる法律の制定を要請していく」とこと、さらに、本年度は「オウム関連施設が存在する未加入の自治体や都道府県レベルの参加協力も要請していく」ことが決定されました。

次に、役員改選が行われ、会長に足立区副会長に金沢市(石川県)、台東区、監事に草加市(埼玉県)、木曾町(長野県)、代表幹事には、荒川区、大阪市、大田原市(栃木県)、東御市(長野県)が就任されました。昨年度に引き続き会長を務める近藤足立区



鳥山地域  
オウム真理教対策  
住民協議会

長から、今後もオウム真理教対策関係市区町連絡会が連携し、オウム真理教の解散に向けて活動していくとの決意表明がありました。

また、都内の5区が参加しているため「オウム真理教対策関係市区町連絡会」から「オウム真理教対策関係市区町連絡会」に名称変更することが決定されました。

総会後には、地下鉄サリン事件被害対策弁護団事務局の中村裕二弁護士による講演及び公安調査庁による報告会が行われました。同庁の調査第一部第二課長からは、「オウム真理教の現状等について」説明がありました。それによれば、現在、主流派(以下「アレフ」という)及び上祐派(以下「ひかりの輪」という)を併せて、国内に出来約300人、在家約1,350人の合計約1,650人の信徒と約7億6,500万円の資産を有しております。年間100人を越える新規信徒を獲得し、35歳未満の信徒が増加しているとのことで

いた。また、アレフは、



足立区 近藤弥生区長(市区町連絡会会长)



(世田谷区文責)

**連載 オウム真理教と聞い続ける⑯ 佐藤みどりさん聞く**

インタビュー中に何度も耳にした「子どもを持つ母親に、オウム真理教の怖さをもつと知つてもらいたい」は活動で得た佐藤さんの教訓だろう。地下鉄サリン事件から20年が経過し、オウム真理教の怖さを知らない世代が、アレフやひかりの輪に入信することに危機感を募らせる。オウム真理教の集団居住後、町会の方々と施設に行き、たまにしか風呂に入らない薄汚い信者を見て、「両親のところに歸りなさい」と声を掛けた。当時は自身の子どもも含め、「地域の青年が、オウム真理教に勧誘されないか心配だった」と語る。さらにオウム真理教が鳥山地域に来て間もない頃の学習会で上祐らしき人物が会場に入ろう

「麻原絶対を堅持し、反社会的本質を強める傾向」、ひかりの輪は、「麻原隠しを推進し、観察処分を免れるための取組を継続」等の説明がありました。同庁からは、団体規制法の施行状況等の報告や、今後もオウム真理教の解散・解体に向け、意見交換会等を通じて、引き続き関係機関や住民のみなさまと連携を図っていきたいとの発言がありました。

最後に、各自治体での対策の取組み状況(アンケート結果等)に基づき、課題等について意見交換を行いました。

（世田谷区文責）

## 愛知県豊明市桜ヶ丘区の活動について 桜ヶ丘区長 野々山高司さん

寄稿

平成20年3月22日、豊明市栄町に「ひかりの輪名古屋支部豊明施設」が開設されて7年が経過しました。初めて開設を知った時、普段は静かな「いなみ町」が、バケツの水をひっくり返すほどの驚きと騒ぎになり、市民は「この先どうなるのだろう」と不安でいっぱいでした。誰もが、オウム真理教の起こした一連の凶悪事件を想像し、いつか我が町でも起るかもしれない、思いを募らせました。幸い、ここに至って事件は起きておらず、一見「平穏」に思われていますが、近隣住民の不安は消えることはありません。桜ヶ丘区では、平成24年4月から「桜ヶ丘防犯パトロール隊」を中心に監視活動を行っていますが、地元の意見を尊重して「あまり刺激せず、静かに監視すること」を基本に行ってます。今年からは、区も力を入れて監視活動に参加しています。又、監視活動した結果を回覧板等で区民に知らせて、不安解消に役立てています。道場（教室、説法）開講時に来所する信者の人数は、一昨年をピークに、やや減少傾向にありますが、それでも毎回10人前後は訪れていて、女性信者が増えているように思われます。気になる現象として①道場に住みつく信者が増えている事（現在3名）。②近辺に空き家が増えていること・・・です。桜ヶ丘区では、区民の「安全で安心して暮らせる町づくり」を目指して、防災、防犯、防火、交通安全等に取り組んでいますが「ひかりの輪」の団体壊滅を最終目標に、諸団体と歩調を合わせて活動を進めて参ります。



ひかりの輪施設



桜ヶ丘防犯パトロール隊

## 下町まつりで募金活動

6月6日、第6回下町まつりが世田谷文学館周辺一帯で開かれました。ケン玉や藁細工、芦花小中学生のエイサーヤーアコースティック演奏、綿あめやポップコーン、焼きそば店もあって、近隣の家族が地元野菜や草花の買物を楽しみました。文学館内では小学生の交通安全ポスターの展覧会、渡辺烏山総合支所長による「烏山のこれまでと今後」の講演会は大正時代から今日までの近郊農村から郊外住宅地への変遷や京王線の開通と都市計画・今後の動きなど、貴重な古地図を提示した講演内容でした。長い歴史の中で着実に発展したこ

の烏山地域。嬉々として楽しむ子どもたちの姿を見て、一日も早いオウム真理教の解散・解体で地域の安穏が急がれる思いを強くしました。募金活動への皆さまのご協力に感謝すると共に、場所を快く提供して頂いた実行委員会の皆さま有難うございました。



## 住民協議会活動報告

6月23日（火） 実行委員会  
6月29日（月） 協議会ニュース147号初校正  
7月3日（金） 事務局会議

7月6日（月） 協議会ニュース147号再校正  
7月14日（火） 協議会ニュース147号発行

協議会ホームページアドレス <http://www.kyogikai.jp>

この協議会ニュースは、皆様の募金により発行されています。